

科目名	地域経済産業論 Regional Innovation		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・火・4 限	秋・火・5 限	-	-
担当教員名	秦 信行	e-mail		
＜講義の概要と目的＞ 地域経済の活性化（地方創生）が現状日本経済の大きな課題の一つになっている。現状地域経済が不振である原因を日本経済の戦後の経済発展を歴史的に辿る形で明らかにすると同時に、それに対する活性化策を産業集積や産業クラスターなどの経済学的な含意や成功事例を参考に議論したい。 ＜到達目標＞ 学生諸君に地域経済の活性化に向けての合理的で有意義だと思える考え方を示してもらい、同時にその考え方に基づく実際の成功事例を見つけ出しプレゼンしてもらうことを到達目標としたい。 ＜アクティブ・ラーニング要素＞ 講義中に学生諸君に質問し、それに答えてもらう形で議論に繋がりたいと考えている。毎回の授業では事前にレジュメを見てもらえるように用意するので、予習は欠かさないようにして頂きたい。 ＜ゲストスピーカー招聘＞ 地域経済活性化、地方創生に関わっておられる研究者お二人をゲスト講師として招聘する予定。				
＜講義計画＞ 1 回目：イントロダクション ・要点：教員と履修生、双方の自己紹介を行ってもらい、この講義の概要を説明する。 2 回目：戦後日本経済の発展過程 ・要点：戦後 70 数年、日本経済の発展過程を振り返りながら地域経済の変化を講義する。 3 回目：産業集積の経済的な意義と考え方 ・要点：産業集積が持つ経済的なメリットやかつての現実の産業集積の分類などについて講義する。 4 回目：産業クラスターの経済学的な理解と考え方 ・要点：産業クラスターについてのポーターの考え方を紹介しつつ、クラスターの目的を説明する。 5 回目：日本の産業クラスターの現状 ・要点：2000 年以降日本で始まった産業クラスター政策の推移と現状を説明する。 6 回目：産業クラスターとしてのシリコンバレー（1） ・要点：成功した産業クラスターである米国シリコンバレーの NHK 特集番組を視聴する。 7 回目：産業クラスターとしてのシリコンバレー（2） ・要点：シリコンバレーがハイテク産業クラスターとなった成功要因を議論する。 8 回目：G と L の世界（1） ・要点：富山和彦氏の「G と L」の世界の考え方を紹介し、特に「L」の世界の特色等について説明する。 9 回目：G と L の世界（2） ・要点：日本の「L」の世界の課題と活性化の方策について説明し議論する。 10 回目：ゲストスピーカーの話（1） ・要点：大学発ベンチャーのエコシステム等について講義して頂く。 11 回目：ゲストスピーカーの話（2） ・要点：地方創生における地域事例を紹介して頂き、成功要因を講義して頂く。				

12 回目：履修生によるプレゼンテーションと議論（1） ・要点：学生諸君が考えた地域経済活性化の考え方とその具体的な成功事例をプレゼンしてもらう。 13 回目：履修生によるプレゼンテーションと議論（2） ・要点：学生諸君が考えた地域経済活性化の考え方とその具体的な成功事例をプレゼンしてもらう。 14 回目：履修生によるプレゼンテーションと議論（3） ・要点：学生諸君が考えた地域経済活性化の考え方とその具体的な成功事例をプレゼンしてもらう。 15 回目：講義の総括 ・要点：14 回の授業を簡単に振り返り、担当教員が考える地方創生に必要な要因を紹介し議論する。
＜講義の進め方＞ 毎回事前にレジュメを用意するので、あらかじめそれを読んでおいて頂いた上で講義を進める。講義では色々な質問をするので、当てられた方はその質問に答えて自身の意見を述べて欲しい。
＜事前事後学修内容＞ 事前にはレジュメを見て頂き、知らない言葉などを調べておいて欲しい。事後には改めてレジュメを整理し、自分なりのノートを作成して欲しい。 ＜予習・復習時間＞ 各回の予習・復習には計 2～3 時間かかると想定され、詳細については講義時に指示する。
＜教科書及び教材＞ 教科書は特に指定しない。
＜参考書＞ 富山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書 西澤昭夫/大滝義博『大学発ベンチャー成功の条件』創成社 原田誠司「ポーター・クラスター論について」長岡大学『研究論叢』第 7 号 山崎朗「産業クラスターの意義と現実的課題」『組織科学』Vol. 38 No. 3 2005 など。講義の途中でも参考文献等があれば紹介する
＜成績評価方法＞ 欠席 6 回以上の受講生の成績評価は行わない。評価は原則として①クラス貢献度（出席回数や授業時の発言内容）、②課題レポート、③最後のプレゼンテーション、の 3 つの要素で行う。3 つの要素の配分については、クラス貢献度 30%、課題レポート 30%、最後のプレゼンテーション 40%とする。ただし状況によっては変更もあり得るが、その場合は授業時にその旨理由も含めてきちんと説明する」 ＜課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法＞ 学生各人の要請に応じて簡単にフィードバックする。
＜履修条件＞ 特になし
＜ディプロマポリシーとの関連＞ アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当
＜録画映像の視聴＞ 可
＜オフィスアワー＞ 火曜日の 4 限と 5 限の間（17 時～18 時）をオフィスアワーとする。
＜その他＞ 特になし